

# 子育て情報 2月号

平成31年 2月  
椋山女学園大学附属幼稚園



## 立春ですね

園長 山中 文

ようち園 行って楽しく 遊んだよ  
ようち園 かわいい子がさ いっぱいだ  
ようちえん 小さい子たち かわいいな  
ようち園 昔のことを 思い出す  
ちびっこのほっぺはとてもプニプニだ

交流会で幼稚園に来てくれた椋山女学園大学附属小学校3年生が詠んでくれた句です。「小学校だより」に掲載されていました。小学校3年生になると、このようにことばを編むようになるのですね。

近隣の小学校で説明会もはじまりました。年長さんは、いよいよ次のステージが近くなってきました。今は小学校にあがったらどうなるだろうと思われている保護者のみなさまも、ふっと気づいたら、この3年生のこのような姿を目にされるようになることでしょう。

先日、本幼稚園では、節分の豆まきがありました。子どもたちは、当日に豆をまいて鬼を追い払うだけではなく、その数日前から準備をします。鬼のお面をかぶっておどかしたり、鬼の的あてをしたりと、園の中は節分ムードいっぱいになります。

年中さんは、まく豆を紙粘土でつくりました。みんなでくるくると紙粘土を手の平でまわして、手ごろな「豆」をつくります。「私もつくりたいな」というと、何人もの子どもたちが、少しずつ自分の持っている紙粘土を分けてくれました。そして、「小さすぎると鼻の中に入るといけないし、大きすぎるとお団子みたいになるから、気を付けてね」と教えてくれました。一昨年の子育て情報2月号では、前園長が「4歳児は「ふりかえりはじめる4歳」とも言われ、点検の目が芽生えます」と書いていますが、まさにそのような4歳さんの様子が見られたことでした。

当日は、鬼も大張り切りです。お仕事を調整してかけつけてくださった「鬼」たちが、リアルな手づくりの「鬼の手」などをはめて、しっかり、子どもたちに話しかけてくれました。「やだやだばかり言ってる子はいないかあ」「給食好き嫌いばかり言ってる子はいないかあ」…。子どもたちは、震えながら、しっかり、自分の中の「鬼」退治をしておりました。

こうした体験の積み重ねが、就学以降で学習していく根っこになります。幼稚園は、就学後の授業による教育とまったくスタイルが違うため、よくわかりにくいとされますが、就学後の姿を見通して遊びや体験をつくっていています。大きくなって「きょうは節分…」というお話を聞く頃は、子どもたちはきっとこの一連の体験を思い出すことでしょう。

さて、節分も終わり、立春を迎えました。少し気温緩やかな日もあり、登園する子どもたちのコートが薄くなってきています。

いい春になりますように。

